

(FP04071)

Japanese Patent Application Laid-open No. HEI 7-69357 discloses a soft packing bag for liquid wherein

a nozzle type unsealed area in communication with the interior of a packing bag and a narrow, long unsealed area in communication with the interior thereof are provided at the upper sealed part at a space and an enlarged sealed area sufficiently large for the fingers to grip or an enlarged sealed area having a hole sufficiently large for the fingers to put in is provided. As an unpacking means, it may be better to provide a notch in a sealed side part. Since a pour opening and an air hole are formed by tearing off the upper sealed part across the unsealed areas and, since the liquid contents can be smoothly poured out with the enlarged sealed area gripped with the fingers, the refilling operation is possible without causing the liquid to spill.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-69357

(43) 公開日 平成7年(1995)3月14日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 33/38

77/30

C

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平5-240271

(22) 出願日 平成5年(1993)9月2日

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 佐田 洋一

京都府京都市右京区太秦上刑部町10番地

大日本印刷株式会社内

(72) 発明者 高橋 正史

京都府京都市右京区太秦上刑部町10番地

大日本印刷株式会社内

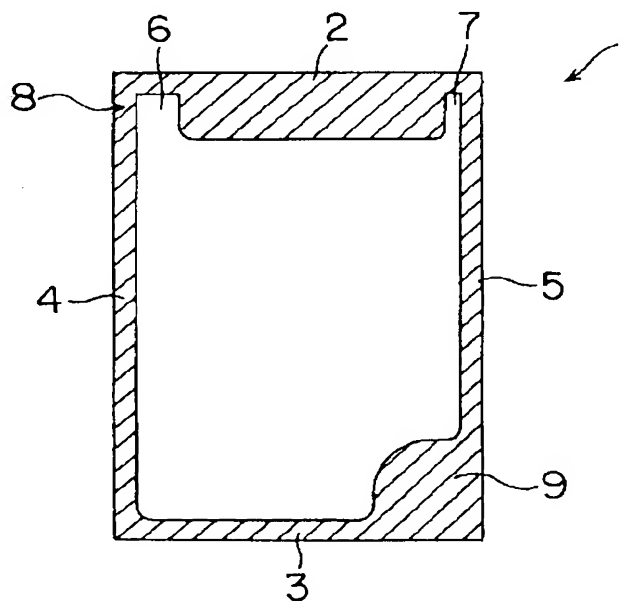
(74) 代理人 弁理士 土井 育郎

(54) 【発明の名称】 液体用軟包装袋

(57) 【要約】

【目的】 収納した液体の移替えを容易に行える軟包装袋を提供する。

【構成】 ノズル型で内部に連通する非シール領域6と細長状で内部に連通する非シール領域7を上辺シール部2に間隔を置いて設けるとともに、指で把持可能な大きさの拡大シール領域9又は指が入る大きさの孔のある拡大シール領域を設ける。開封手段として側辺シール部4にノッチ8を設けるとよい。各非シール領域6、7を横断するようにして上辺シール部2を切り取ることで注ぎ口と空気孔が形成され、拡大シール領域9を指で把持した状態で内容液をスムーズに注ぎ出せるので、液体をこぼすことなく移替え操作を行える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ノズル型で内部に連通する非シール領域と細長状で内部に連通する非シール領域を上辺シール部に間隔を置いて設けるとともに、指で把持可能な大きさの拡大シール領域又は指の入る大きさの孔のある拡大シール領域を設けたことを特徴とする液体用軟包装袋。

【請求項 2】 上辺シール部と平行な方向に引裂性を有する包材で軟包装袋を形成し、前記各非シール領域を横断する線上に位置するように側辺シール部にノッチを設けたことを特徴とする請求項 1 記載の液体用軟包装袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、詰め替え用の液体を収納するための軟包装袋に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般に、液体洗剤等は使用上に便利なプラスチックボトルに入れた状態で販売されているが、環境問題上の観点からこのプラスチックボトルを一回きりで廃棄せず何度も使用するために、軟包装袋に収納した詰め替え用の液体洗剤等も同時に販売されている。そして、この詰め替え用の液体洗剤等を軟包装袋からプラスチックボトルに移し替えるに際しては、多くの場合、軟包装袋のコーナー部分を鉋で切り取ったりノッチの部分から引き裂いたりして開封している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のようにコーナー部分を開封した軟包装袋からプラスチックボトル等の容器に内容液を移し替える場合、軟包装袋は手で持ちにくいものであり、しかも空気が逆流してスムーズに流れ出ないため、移替え操作が難しいという問題点がある。

【0004】 本発明は、上記のような問題点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、収納した内容液の移替えを容易に行うことのできる液体用軟包装袋を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明の液体用軟包装袋は、ノズル型で内部に連通する非シール領域と細長状で内部に連通する非シール領域を上辺シール部に間隔を置いて設けるとともに、指で把持可能な大きさの拡大シール領域又は指の入る大きさの孔のある拡大シール領域を設けたことを特徴としている。

【0006】 そして、開封操作を容易とするため、上辺シール部と平行な方向に引裂性を有する包材で軟包装袋を形成し、各非シール領域を横断する線上に位置するように側辺シール部にノッチを設けることが好ましいものである。

【0007】

【作用】 上述の構成からなる本発明の軟包装袋では、各

非シール領域を横断するようにして上辺シール部を切り取ることにより、ノズル型の非シール領域に注ぎ口が形成され、細長状の非シール領域に空気孔が形成される。そして、注ぎ口から内容液を注ぎ出す際に、空気孔は外気を取り入れることにより注ぎ出す操作をスムーズに行わせるように作用する。また、拡大シール領域は軟包装袋を手で持ちやすくさせる役目を果たす。

【0008】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0009】 図 1 は本発明に係る液体用軟包装袋の一実施例を示す正面図であり、この軟包装袋 1 は内面が熱融着性を有する柔軟なフィルム包材を 2 枚合わせその中に液体を充填してなる 4 方シール袋で、上辺シール部 2、下辺シール部 3、左右の側辺シール部 4、5 を有している。なお、本実施例では、横方向に引裂性を有する包材を用いてこの軟包装袋 1 が形成されている。そして、上辺シール部 2 にはノズル型で内部に連通する非シール領域 6 が左側の側辺シール部 4 に隣接して、細長状で内部に連通する非シール領域 7 が右側の側辺シール部 5 に隣接してそれぞれ設けられているとともに、各非シール領域 6、7 を横断する線上に位置するように左側の側辺シール部 4 にノッチ 8 が形成されている。また、本実施例では下辺シール部 3 と右側の側辺シール部 5 の交わるコーナー部分に指で把持可能な大きさの拡大シール領域 9 が設けられている。

【0010】 上記の軟包装袋 1 は、詰め替え用の液体洗剤等が充填された状態で販売されるもので、プラスチックボトル等の容器に移し替える時に、ノッチ 8 の部分から各非シール領域 6、7 を横断するように上辺シール部 2 を横方向に引き裂いて開封する。これにより、図 2 に示すように、非シール領域 6 により注ぎ口 6 a が形成され、非シール領域 7 により空気孔 7 a が形成される。このように開封した後、拡大シール領域 9 を指で把持した状態で軟包装袋 1 を手で持ち、液体を容器の中に移し替えるようにする。このようにして移替え操作を行うと、軟包装袋 1 を安定した状態で把持でき、しかも空気孔 7 a があるのでここから外気が流入して液体を注ぎ口 6 a からスムーズに流れ出させることができる。

【0011】 図 3 に示される実施例では、上記実施例の軟包装袋 1 における拡大シール領域 9 に指の入る大きさの孔 9 a を設けている。本実施例のものでは、この孔 9 a に指を入れてしっかりと軟包装袋 1 を持った状態で内容液の移替え操作を行うことができる。

【0012】 図 4 に示される実施例では、ノズル型で内部に連通する非シール領域 6 は先の実施例と同様に左側の側辺シール部 4 に隣接して設けているが、上辺シール部 2 と右側の側辺シール部 5 の交わるコーナー部分に指で把持可能な大きさの拡大シール領域 10 を設け、細長状で内部に連通する非シール領域 7 をこの拡大シール領

域10に隣接して設けている。また、図5に示される実施例では、図4に示す軟包装袋1の拡大シール領域10に指の入る大きさの孔10aを設けている。なお、この孔10aはノッチ8の部分から上辺シール部2を引き裂いた時に、裂け目が通らないように若干下方寄りの位置に設けられている。

【0013】図6に示される実施例では、上辺シール部2と右側の側辺シール部5の交わるコーナー部分に指で把持可能な大きさの拡大シール領域10を設けるとともに、下辺シール部3と右側の側辺シール部5の交わるコーナー部分に拡大シール領域9を設けてここに指の入る大きさの孔9aを設けている。また、図7に示される実施例では、上辺シール部2と右側の側辺シール部5の交わるコーナー部分に指で把持可能な大きさの拡大シール領域10を設けるとともに、下辺シール部3と左側の側辺シール部4の交わるコーナー部分に拡大シール領域11を設けてここに指の入る大きさの孔11aを設けている。

【0014】なお、ノッチ9の部分から引き裂いて開封せず、ハサミ等で上辺シール部2を切り取るようにしてもよく、このようにハサミ等を用いて開封する場合には軟包装袋1を形成する包材の引裂方向を考慮する必要はない。

【0015】また、本発明の実施例を4方シール袋について行ったが、包装袋の形態としてはこれに限定されるものではなく、三方シール袋、スタンドパック袋、ガゼット袋等にも適用することができる。特に、図4又は図5に示したタイプのもはスタンドパック袋の場合に有効である。すなわち、図8に示す如きスタンドパック袋1はその底部閉鎖部12がW状に折り曲げられて両サイドで接着されており、内容液を充填した時に底部が広がった形状になるので、ここにも指を入れて把持することができる。

【0016】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の液体用軟*

* 包装袋は、ノズル型で内部に連通する非シール領域と細長状で内部に連通する非シール領域を上辺シール部に間隔を置いて設けるとともに、指で把持可能な大きさの拡大シール領域又は指の入る大きさの孔のある拡大シール領域を設けた構成としたので、各非シール領域を横断するようにして上辺シールを切り取ることにより注ぎ口と空気孔が形成されるとともに、拡大シール領域を手で把持した状態で内容液を注ぎ出せることから、液体をこぼすことなく容易にその移替えを行うことができる。

【0017】また、上辺シール部と平行な方向に引裂性を有する包材で軟包装袋を形成し、各非シール領域を横断する線上に位置するように側辺シール部にノッチを設けることにより、ハサミ等を用いなくても容易に上辺シール部を切り取って注ぎ口と空気孔を形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る軟包装袋の一実施例を示す正面図である。

【図2】図1の軟包装袋を開封した状態で示す正面図である。

【図3】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

【図4】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

【図5】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

【図6】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

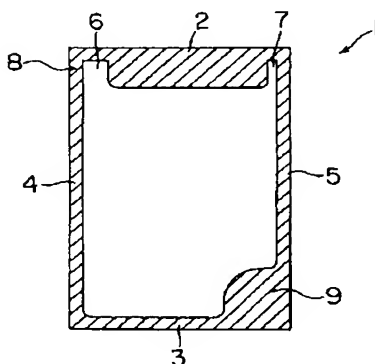
【図7】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

【図8】軟包装袋の別の実施例を示す正面図である。

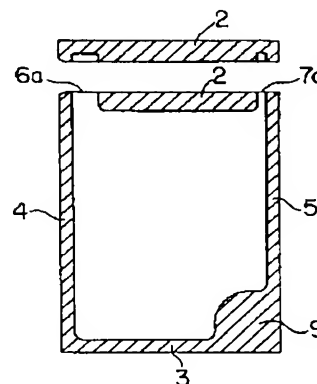
【符号の説明】

- 1 軟包装袋
- 2 上辺シール部
- 3 下辺シール部
- 4, 5 側辺シール部
- 6, 7 非シール領域
- 8 ノッチ
- 9, 10, 11 拡大シール領域
- 9a, 10a, 11a 孔

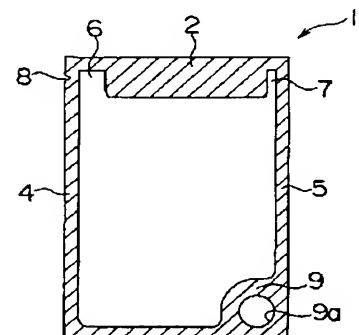
【図1】



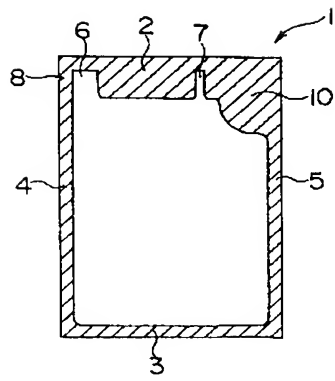
【図2】



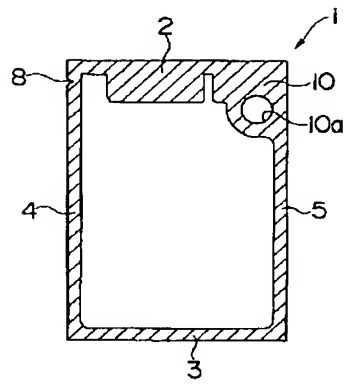
【図3】



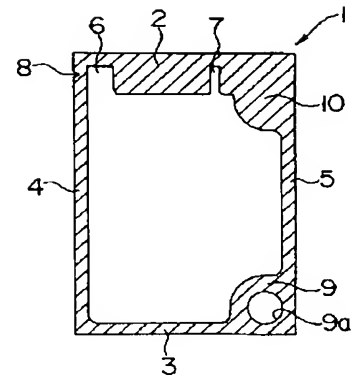
【図4】



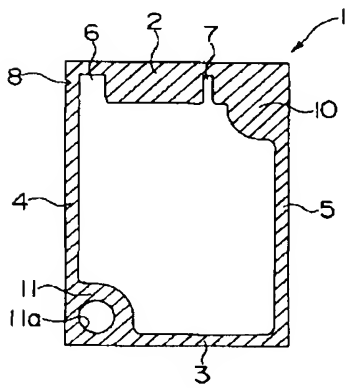
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

